

**外国ルーツ高校生世代に向けた
日本語学習教室運営の仕組みづくりのための手引き**

2026 年 3 月

NPO法人 神戸定住外国人支援センター

〈目次〉

はじめに.....	2
ことばの整理.....	4
第1章 神戸市の高校生世代が置かれた状況と支援の重要性.....	6
1. 神戸市の高校生世代数.....	6
2. 高校生世代に関する学校教育制度上の課題.....	7
3. 地域学習教室の果たす役割.....	9
第2章 地域学習教室の枠組みづくり.....	12
1. 開催スケジュールの作成.....	12
2. 支援体制づくり.....	16
3. 地域学習教室の立ち上げにあたって準備するもの.....	29
4. 運営資金.....	31
第3章 地域学習教室の運営.....	34
1. 学習者の募集と学習開始に向けた準備.....	34
2. 教科学習支援.....	43
3. 学習継続のための工夫.....	46
第4章 進路形成のために.....	50
1. 高校進学.....	50
2. 高校卒業後の進路相談.....	53
補足 2025年度実証事業の概要.....	57
おわりに.....	61

はじめに

近年、神戸市をはじめとする都市部では、外国にルーツをもつ若者、特に高校生世代の増加が顕著になっている。家族帯同による学齢期での渡日や、義務教育年齢を超えてから渡日し高校入学を目指す、いわゆる「ダイレクト生」の存在など、その背景や渡日時期、日本語能力、学習経験は多様である。一方で、日本の教育制度は、こうした高校生世代一人ひとりの状況に十分に対応しきれていないと言いきれなく、高校進学や在学中の学習継続、卒業後の進路選択において、さまざまな困難が生じている。地域としても、これからの社会の担い手として期待される若者の将来を十分に支えられずにいる。

私たち特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター（KFC）は、長年にわたり地域の日本語教育や学習支援の現場で、外国にルーツをもつ子ども・若者と向き合ってきた。その中で強く感じてきたのは、「制度のはざま」に置かれ、学校だけでは支えきれない高校生世代の存在である。日常会話はできても教科学習に必要な日本語が不足している生徒、日本の学校文化や評価の仕組みが分からず戸惑う生徒、進路に関する情報にアクセスできないまま選択肢を狭めてしまう生徒—こうした姿は決して例外ではない。

地域の NPO が運営する日本語教室や学習支援の場は、若者にとって「学び直し」や「つまづきからの回復」を可能にする重要な拠点である。また、同じような背景をもつ仲間や、年齢の近い支援者と出会い、安心して失敗できる「第三の居場所」としての役割も担っている。しかし、高校生世代を対象とした支援には、生活日本語を中心とする地域日本語教室とも、学校内での支援とも異なる専門性や体制づくりが求められる。そのため、神戸市内の現状として、高校生世代のみを対象とした取り組みは存在していなかった。

本手引きは、こうした課題意識のもと、神戸市が起案・事業化し委託運営を受けた KFC において実施された「高校生世代に向けた日本語教室実証事業」の実践を通して得られた知見を整理し、可視化することを目的として作成したものである。事業対象となった高校生世代の多様性、地域学習教室運営における工夫や課題、支援体制の構築、学校や行政との連携のあり方など、現場で直面した具体的な経験をもとに記している。

この手引きが、今後、高校生世代の外国ルーツの若者を支える地域学習教室や取組を新たに始めようとする自治体、NPO や地域団体、関係機関にとって、実践的な参考資料となることを願っている。そして何よりも、本書に記された試みが、高校生世代一人ひとりの「学び続けたい」という思いを支え、将来への選択肢を広げる一助となることを期待したい。

ことばの整理

外国ルーツ高校生世代

本手引きでは「外国籍」「外国人」という言葉を使用せず、「外国ルーツ高校生世代」を用いる。「外国ルーツ高校生世代」は、「概ね 15 歳以上から 20 歳以下」かつ「渡日から概ね 5 年以内」の「日本語を母語としない者」を指す。

「外国ルーツ」としたのは、外国とのさまざまなつながりのある者を含むためである。数年内に渡日した外国生まれ育ちの外国籍・日本国籍者、日本生まれだが日本語を母語としない養育者のもとで育った者、生まれは日本だが幼少期に外国へ行き最近渡日した者など、外国との多様なつながりをもつ者を含んでいる。

高校生ではなく「高校生世代」としたのは、①高校に在籍している高校生と、②高校進学・編入希望をもつ者を含むためである。

対象とする年齢層が幅広いのは、外国ルーツの若者の場合、高校進学する年齢が、15、6 歳を越えてからの場合もあるためである。背景には、渡日した際、教科の力はあるものの日本語能力を理由に学年を下げて小中学校に編入している場合や、母国で中学校を卒業してから渡日した場合、日本の高校へ入るまでに数年間夜間中学校や地域の日本語教室で勉強していること、定時制高校の在籍者の割合が高いなどがある。

本来、「外国ルーツ高校生世代」には、日本語指導を必要としない者やミックスルーツの者なども含まれるが、地域学習教室の運営という本手引きの趣旨に鑑み、「日本語支援が必要な外国ルーツ高校生世代」を、以下より「高校生世代」と呼ぶ。

学習者

高校生世代のなかでも、地域学習教室で学習する者を総じて「学習者」とする。学習者は大きく以下の 2 つのグループにわけた。

▷生徒

高校に通学している者。通っている学校種には全日制、定時制、通信制がある。

▷ダイレクト生

母国や第三国で中学校を修了してから渡日し、日本で中学校を経ずに高校進学を目指す者。なかには海外で数年高校に通学していた者も含まれる。

一般的な事項を述べる際には「高校生世代」、地域学習教室に通学予定の者、通学している者に共通する内容の際には「学習者」、そのなかでも各グループに限定する場合はそれぞれの呼称（生徒、ダイレクト生）を使用する。

なお、夜間中学校や民族学校、インターナショナルスクールに通学し次年度に高校進学を希望している者や、さまざまな事情で退学し高校編入を希望する者など、上記の区分にあてはまらない高校生世代も存在する。本手引きでは言及していないが、多様な学習希望者がいることを念頭に地域学習教室づくりをする必要がある。

支援者

地域学習教室で直接的に高校生世代の学習をサポートする者、地域学習教室内外で間接的にサポートする者すべてを総称して「支援者」とする。支援者のなかには、さまざまな役割をもつ人がいる。例えば、母語支援者、ボランティア、有償スタッフ、外部協力者などである。具体的な内容は手引きの 2 章を参照。

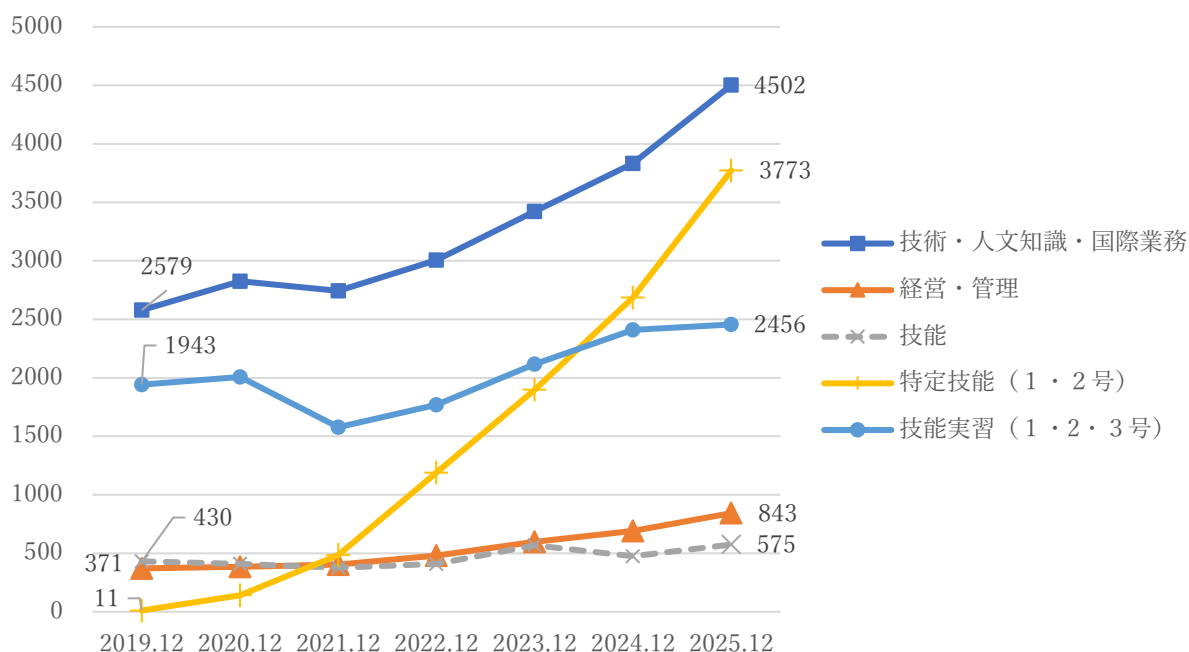
地域学習教室

高校生世代を対象に実施する地域の日本語・学習教室を「地域学習教室」と呼称する。単に「教室」と記載するときは、中学生や高校生が学ぶ学校の「教室」を意味する。

第 1 章 神戸市の高校生世代が置かれた状況と支援の重要性

1. 神戸市の高校生世代数

日本の在留外国人数は年々増加しており、その趨勢は神戸市も同様である。ただし、全住民に対する外国人住民比率は日本全国の 2.96% と比べて¹、神戸市は 3.96% と全国よりも高い数値を示している²（2025 年 12 月時点）。なかでも、就労系在留資格をもつ者が増加しており（図表 1-1）、この傾向が続くと予想される。就労者が増加するということは、当然在留するその者の家族も増えることとなる。



図表 1-1 就労系在留資格別 神戸市在住外国人人口の推移（提供：神戸市）

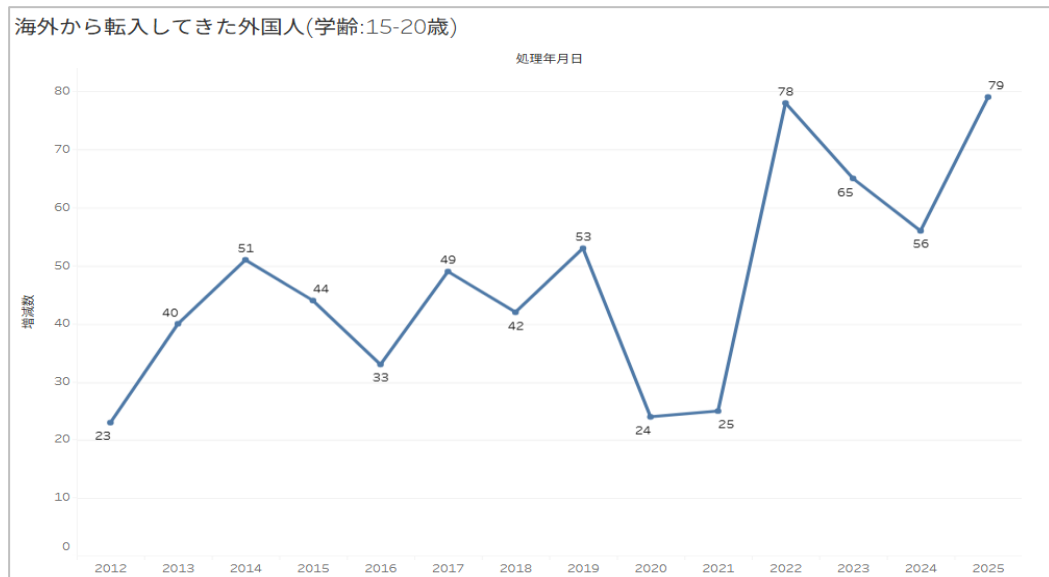
小・中学生への学校内外でのサポートは拡充されてきたが、高校生世代は見落とされてきた。在日 4 世世代以降と思われる特別永住者を除いた、高校生世代に相当する 15～20 歳の人数³は、2,241 名である（2025 年 12 月末時点）。このうち、

¹総務省 2025 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数のポイント 資料 1」（令和 7 年 1 月 1 日現在）

²神戸市「人口・人口動態データ集」

³出入国管理庁のデータは 1 歳刻みで公表されている。

高校進学および在籍が想定される者⁴は 694 名である。この中には、日本の義務教育年齢を超えてから渡日した若者が含まれており（図表 1-2）、さらにその中に、現在日本の学校には在籍しておらず、日本の高等学校への進学を希望する、いわゆる「ダイレクト生」が含まれている。



図表 1-2 海外から転入してきた外国人数（学齢：15-20 歳）⁵（提供：神戸市）

2. 高校生世代に関する学校教育制度上の課題

増加を続ける高校生世代が学ぶ権利を保障され、将来安定した就労を実現し、社会的な孤立や不適応を防ぐため、高校卒業とその後の進路形成支援は重要である。だが、残された課題は多い。ここでは学校教育制度上の課題を、中学校に在籍している生徒（「中学生」と表記）にも着眼し整理する。

（Ⅰ）高校入学前

日本語指導を必要とする外国人生徒等（以下「外国人生徒等」）には、未だ高校進学の壁が存在している。図表 1-3 「2024 年度の全中学 3 年生と外国籍中学生の進

⁴ 留学、永住者の配偶者、日本人の配偶者等の在留資格、技能実習、特定技能、技術・人文知識・国際業務、経営・管理、技能以外の在留資格の者。

⁵ 特別永住、永住、留学、就労系在留資格を除く 15～20 歳の者の数。

路状況」によると、公立中学校へ通う神戸市の中学生の高等学校進学率は、98.2%である一方、神戸市内在住の外国人生徒等では92.8%とやや低くなっている。

進学先の種別では、神戸市内在住の外国人生徒等の17.6%が定時制高校に進学しているが、神戸市下の全中学生では2.9%である。全日制高校への進学率も15.6ポイントの差がある。

図表 1-3 2024 年度の全中学 3 年生と外国人生徒等の進路状況（提供：神戸市）

	①公立・私立高校			②高専等	①②計	③専修・ 各種学校	④就職	⑤無職 その他	③④⑤計	合計
	全日制	定時制	通信制							
外国ルーツ生徒(神戸市)	91	22	1	2	116	3	5	1	9	125
	72.8%	17.6%	0.8%	1.6%	92.8%	2.4%	4.0%	0.8%	7.2%	100.0%
全中学3年生(神戸市)	10,272	348	719	316	11,655	96	14	103	213	11,868
	86.6%	2.9%	6.1%	2.7%	98.2%	0.8%	0.1%	0.9%	1.8%	100.0%
全中学3年生(兵庫県)	41,582	1,410	3,082	432	46,074	266	103	577	946	47,020
	88.4%	3.0%	6.6%	0.9%	98.0%	0.6%	0.2%	1.4%	67.1%	100.0%

神戸市教育委員会（神戸市内の外国ルーツ生徒と全中学3年生）、兵庫県教育委員会（兵庫県の全中学3年生）の調査データより作成。

中学教員の進路指導を受けている中学生でさえ、全体的な傾向と異なる進路状況にあるが、サポートを受けにくいダイレクト生は、さらに苦しい状況に置かれている。

ダイレクト生は年齢や学歴を理由に、昼の中学校への編入が難しい場合が多い。海外で義務教育段階を終えていれば中学校に編入できないとする学校もあるためである。昨今、夜間中学校の入学要件も厳格化されている。そもそも、ダイレクト生の存在を想定した制度設計がなされていない。それが、「外国人生徒にかかわる特別枠選抜」（以下「特別枠選抜」）制度に表れている。

兵庫県での特別枠選抜は、外国籍の来日3年以内の高校生世代を対象に、受験時の配慮と、入学後の日本語支援等を実施している。2026年3月現在、県内では6校で実施されている。各校・各学年に3名の枠があり、そのうち神戸市内には2校⁶ある。ただし、受入者数が少なく倍率は年々上昇している。

外国人生徒等への配慮を行う全日制高校は少なく、私立高校では年齢制限が厳しい、経済的理由等により選択肢から外れてしまうことも多い。

⁶ 神戸市では神戸市立須磨翔風高校と兵庫県立北神戸総合高等学校がある。

(2) 高校在学中

無事、高校に入学できたとしても、その後にも困難が待ち受ける。

渡日して数年の生徒の場合、高度化する授業を理解するための抽象的・論理的な言語運用や、専門用語を多く含む教科学習に困難を抱えやすい。取り出し指導や支援員配置が行われているものの、時間数や内容、専門性には地域差・学校差が大きく、日本語教育が一時的・補助的な対応にとどまっているケースも少なくない。

高校卒業後の進路保障も重要な課題である。特に在留資格「家族滞在」の若者は、日本社会で安定した在留を実現するためには卒業後の在留資格変更が必要で、高校の卒業と卒業時の確実な進路決定が必須である⁷。しかし、文部科学省調査によると、外国人生徒の進路未定率は 11.8%（全高校生は 6.5%）に及ぶ。

(3) 中学校・高校に共通した課題

学校もこうした状況の打開のために取り組みを進めている。特に高校では、「特別の教育課程」の編成・実施を進めているが、制度理解や具体的な運用は模索段階にある。

日本語指導における専門性を有する教員・支援人材の確保および育成も十分でない。そのため、外国人生徒等を担当する教員は日本語指導を含む教育内容や授業設計、評価・成績処理に関する対応と、進級や卒業判定に伴う本人及び保護者との合意形成など広範な業務を担う必要がある。さらに、日本の学校文化の伝達や、生徒個々の背景を踏まえたうえでの進路決定に至るまでの継続的な支援など、教科指導にとどまらない幅広い対応が求められることになり、教員個人の負担が大きい。

3. 地域学習教室の果たす役割

(1) 地域社会の学習環境の現状

2024 年度に実施された神戸市「地域日本語教育の現状と課題を把握するためのヒアリング調査⁸」によると、市内で 15 歳以上を対象とした地域日本語教室の大半

⁷ 参考：出入国在留管理庁「家族滞在」の在留資格をもって在留し、高等学校卒業後に日本での就労を希望する方へ

⁸ 市内の日本語教室や特別枠選抜実施校、定時制高校、夜間中学校等の公的教育機関、外国人従業員を雇用する企業等、合計 22 団体へのヒアリングを実施

では、支援者や会場のキャパシティの不足などから、新規学習者の受入れが難しくなっている。さらに、地域日本語教室の多くは買い物や通院など、生活者としての日本語を学ぶ場として機能しており、進学を目標とした教科学習や学校生活のための日本語学習といった、高校生世代が必要としている支援を提供する地域学習教室は極めて限られることも明らかにされた。

しかし、社会的包摂及び教員の負担軽減の観点からも地域学習教室は下記のような役割を果たせる。

(2) それぞれの学習者の背景に応じた地域学習教室の役割

「日本語指導が必要な外国人生徒が一般の学力試験を受験して高校や大学に進学することは極めて困難」⁹であるという調査結果も発表されており、進路の決定において日本語の習得や情報収集できる包括的な支援の場が重要な役割を持つ。それぞれの学習者に応じては下記の点が重要である。

①高校進学を見据えたダイレクト生と中学生に対する役割

日常会話能力の習得だけではなく、高校教育への接続を意識した日本語教育、高校情報の提供である。以下の点に注力する。

- ①学校における学習活動（説明を聞く・指示を理解する・記述する等）に共通して用いられる学習言語の基礎形成
- ②数学・理科・社会など、教科学習に必要な語彙・表現への段階的な導入
- ③日本の学校文化や評価制度への理解を含むオリエンテーション的支援
- ④高校進学に必要な基礎的情報と、出願・入学手続きの支援

②高校卒業と卒業後の進路形成に向けた役割

学習に必要な言語習得と、心理的なサポート、進路形成に向けた情報提供が重要である。この課題に対応するためには、以下の点が不可欠である。

- ①教科学習の理解に直結する学習言語能力の長期的展望をもった育成。日本語教育と教科学習を切り離さないこと。
- ②到達状況や学習過程を適切に捉える学習評価のあり方の構築

⁹田巻松雄 2012~2020「栃木県における外国人生徒の進路状況」宇都宮大学国際学部研究論集」

- ③本来の力を発揮できることによる自信、努力する姿勢の伸長
- ④進路形成に必要な情報提供

以上の実態から神戸市が起案・事業化したのが 2025 年度「高校生世代に向けた日本語教室実証事業」である。実践については「補足 2025 年度実証事業の概要」を参照されたい。

第2章 地域学習教室の枠組みづくり

地域で高校生世代を受け入れ、その後の進路形成をサポートするにあたって、受け皿となる場をデザインしていく必要がある。デザインにあたっては、開催スケジュールの作成、支援体制づくり、物的な環境整備、運営資金についての検討が必要である。以下より、これら4点についてまとめる。

1. 開催スケジュールの作成

高校生世代は、高校卒業後の進路形成にむけて学校の試験はもとより、資格試験、入試制度の理解など、最終学年までにクリアしておくべきことが多々ある。決められたスケジュールで進んでいくことを、当事者、保護者、支援者が理解し対処していかなければならない。資格試験や進学手続きの締め切り等に漏れがなく着実に進められるよう、事前にスケジュールを組んでおくことが必要不可欠である。

(1) 計画作成

どのようなタイプの地域学習教室を実施するのかを決定する。大きく2つのタイプがある。

長期継続型教室（通年教室）

年間を通して1週間に1、2日を継続的に実施する。高校進学、進路決定に向けた学習など、年単位の目標をもって学ぶ。

メリット：学習の躓きに適時対応できる。学習以外の生活、進路相談のフォローがしやすい。人間関係の構築ができる。特に家以外に行き場のないダイレクト生にとっては地域社会との唯一の接点となる。

デメリット：時間が限られるため、地域学習教室の学習時間だけでは成果を得にくい。家庭学習の促進が不可欠。

短期集中型教室

学校の長期休み期間や祝日等、数日から1、2週間集中して学習する。試験の直前対策や、夏季集中教室など。短期目標をもって集中して学ぶ。

メリット：日本語ゼロ初級の学習者や学習時間が足りていない学習者にとっては学習成果が出やすい。

デメリット：疲労しやすく、学習内外での緩急のつけ方の工夫が必要。

これらを組み合わせても、どちらかに絞ってもよい。おおよそのスケジュールを定め、細かな日程調整に入る。

以下の事項は学習内容やニーズに関連するため、事前に確認しておくといよい。

- ・ 学校行事（定期テスト、補習期間、宿泊学習など）
- ・ 資格試験日程（日本語能力試験、英語検定、各種検定など）
- ・ 文化・宗教的行事（正月、ラマダーン、祝祭日など）
- ・ 一時帰国の予定

特に文化・宗教的背景については、日程以外にも配慮を要する。お祈りの時間、食べ物、習慣など、支援者が事前に理解を深めておくべきことは多岐に渡る。本手引きでは触れないが、学習者に応じた配慮が必要であることは念頭に置いておく必要がある。

（２）教室ごとの日程決定

長期継続型教室（以下、「通年教室」）と短期集中型教室のどちらを実施するかを決定したあと、具体的な日程決定に進む。各教室の日程の検討には、下記の点を参考にされたい。

通年教室

長期的な目標に取り組む場のため、学習者が毎回来やすい曜日、時間、回数を設定することが肝要である。曜日や時間が頻繁に変わると学習者が混乱し、ほかの予定との両立が困難になるなどで定着しづらいため、固定化する。

▷曜日

各地域の特性もあるが、金曜日や土日など週末が望ましい。平日の中日は宿題や小テストの勉強などの課題があり、日本語学習に取り組みにくい。週末も部活動やアルバイトなどで参加しづらい学習者もいるが、クラスの時間を分ける、オンライン学習を行うなどで対応が可能である。

▷時間

各回 2 時間程度がよい。特別な事情がある場合は、早退、延長などにも対応する。生徒たちは学校にも通っているため、学習時間は小休憩を挟み 2 時間ほどが、集中力ももつちょうどよい時間である。

全日制高校と定時制高校に通学する生徒がいるため、昼と夕方の 2 つの時間帯を設定する。学校の開始または終了時刻に近い方が通学しやすいため、昼クラスは 14 時～、夕方クラスは 17 時～がよい。

ただし、日本語学校などに通学していないダイレクト生は、1 週間に 2 時間では高校入学の力をつけるのは困難である。そのため、希望があれば別クラスで学習を行う。

▷回数

お盆や年末年始を除き毎週実施する方が学習者にはわかりやすく、習慣化されやすい。学校行事や試験で出席率が低くなることもあるため、予め学校行事日程を考慮した上で、休みの日を設ける等の対応が必要である。

短期集中教室

短期集中教室では、それぞれの目的によって実施する時期と日程、回数を検討する。基本的に学校が休みの期間に行うため、学習時間は通年教室よりも長く、3～4 時間ほどに設定してもよい。50 分+10 分休憩を 3 セットと、最後の振り返り 10 分など、休憩を挟んだ時間割を組む。午前からお昼すぎにかけて実施するときは昼食時間を設けるかどうかを検討するが、昼食は家で食べる学習者もいるため、事前に尋ねて決定する。

具体的には、下記タイプが想定される。

▷夏季集中教室

高校の夏季休暇（約 1 か月）を活用する。3 週間にかけて全 10 回前後実施する。学習日の間隔をあまりあけずにまとまった日程確保ができる。日程決定の際は、高校の補習や、お盆期間の貸し教室の開館日程等に注意を要する。学習期間中の緩急をつけるため、キャリアプログラムを入れるなどの工夫も求められる。

夏季集中教室は学習面でも心理面でも、有効である。特に高校 1 年生は夏休み明

けの時期に中退率が高くなること、ダイレクト生は6月～7月頃の渡日が多いためである。それぞれ不安を抱えやすい時期のため、安心できる場づくりを目指す。ただ、夏休みには一時帰国する学習者も少なくない。通年教室も実施している場合は、学習者に一時帰国の有無を聞いておくといよい。

▷冬季集中教室

10～11月頃に実施。期末考査や個々の日本語習熟度をはかることができる時期である。進学・就職で重視される日本語能力試験（以下、「JLPT」と表記。）の時期でもある（例年7月と12月）。生徒たちは期末考査やJLPT、ダイレクト生たちには高校入試までの中間地点を意識した教室になる。隔週の週末に3回～5回ほど実施する。

▷年末年始集中教室

冬季休暇期間に実施する。生徒たちは冬休みに継続して学習できる場として、ダイレクト生たちには高校入試に向けた教室となる。年末年始にかけて2、3回実施する。様々な宗教の学習者がいるため、クリスマスの日程には配慮する。12～1月にかけては、高校の出願が本格的に始まる時期でもあり、出願のサポートにも良い機会である。

▷テスト直前教室

1～2月にかけて、2、3回実施する。生徒たちは学年末テストの準備、ダイレクト生たちは入試に向けたラストスパートをかける教室である。面接練習や出願状況の確認の場としても機能する。

▷春季集中教室

3月の春季休暇期間に2、3回実施。進学・進級の準備のほか、3月入試を受けるダイレクト生の学習機会、受験準備の場となる。進学先が決まったダイレクト生たちは入学手続きのサポートを必要としている場合もあるため、確認をする。

いつ、どのような目的の教室を実施するかはもちろん大事だが、それ以上に教室の理念や姿勢が重要である。地域学習教室は目の前の学習者を「日本語ができないため、自立した活動ができない若者」と見ることも、「既に多様な力を持っており日

本語運用の力を向上すれば能力発揮できる若者」と見ることもできる¹⁰。単に地域学習教室を開き日本語や学習支援をすればいいわけではない。高校生世代が本来有する力をどうすれば発揮できるようになるのか、なぜ困っているのかを考え想像しながら、学習者の成長を支える伴走者として関わるのがもっとも重要である。

学習内容については、「外国ルーツ高校生世代向け日本語教育プログラムカリキュラム提案書」を参考のこと。

2. 支援体制づくり

地域学習教室の運営について有識者から意見を聞く会議を定期開催する。地域学習教室の運営はコーディネーター、母語支援者、学習支援ボランティア等で行う。ほかにも、保護者、学校教員、地域の方々などからも協力を得られると望ましい。

それぞれの役割と募集方法は次の通りである。

(1) 有識者との定期協議

実践についてのフィードバックを得る場として、定期的に有識者との協議の場が設けられるとよい。学習者の情報共有や対応に困った事例、地域学習教室運営の改善方法などについて相談する場となる。高校教員、日本語教育の有識者、多文化共生を担当する自治体職員、教育委員会、国際交流協会職員などに協力を仰ぐ。このネットワークが、支援者や学習者の募集の上でも大きな力となる。

定期協議の構成員は、自治体担当部署、地域の大学や国際交流協会、在日外国人教育研究協議会などに相談して探す。国際交流協会について、兵庫県であれば公益財団法人兵庫県国際交流協会（HIA）、神戸市であれば公益財団法人神戸国際コミュニティセンター（KICC）のか、各市域にも設置されている。

(2) コーディネーター

地域学習教室の全体を把握し外部との調整などを担う統括コーディネーターと、日々の教室運営を行う教室コーディネーターを置く。

¹⁰東京外国語大学多言語多文化共生センター編 2025 「言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさし実践ガイド」

統括コーディネーター

事業全体のコーディネートを担う。学習者の目標と学習内容の把握や軌道修正、高校・大学進学の情報収集や外部講師への相談、地域学習教室を客観的に観察し改善を促すなど、企画立案と修正などが求められる。専門性と以下の経験・資格があると望ましい。

- ・外国にルーツをもつ子どもの教育に長年関わっている。
- ・日本語教師の有資格者
- ・地域に多様なネットワークを有する

地域学習教室の運営団体に適任者がいなければ、地域の外国人支援団体、日本語教育団体などを通じ、活動に関心がある者を探すことも有効である。

教室コーディネーター

主に日々の学習にあたり、学習者対応やボランティア支援者のコーディネートを担う。学習者の学習状況や進路希望状況の把握、保護者からの相談、ボランティア支援者の対応など運営に携わる。学習者や支援者と十分にコミュニケーションを図り、受験前などの緊急時には迅速に動けるよう、まとまった時間に関われて、以下の経験があることが望ましい。

- ・高校生の教育に携わったことがある。
- ・ボランティア支援者のコーディネートをした経験がある。

運営団体のネットワークを用いた募集が考えられる。

(3) 母語支援者

初級日本語を学んでいる学習者や学習用語で躓いている学習者には、母語でのサポートが有効である。母語を用いて学習内外でサポートするのが母語支援者である。

主な支援内容

- ・教材に出てくる用語や文法事項を母語で説明する。
- ・母語と日本語の類似点や相違点に着目して勉強のコツを伝える。
- ・地域学習教室側、コーディネーターと学習者の橋渡しをする。

ほかにも…

- ・学習者が伝えたいことを母語で聞き取って通訳してもらう。
- ・進路に関する情報提供などで通訳してもらう。

- ・ありのままの気持ちを相談できる相手になる。
- ・思いのまま話せる時間をとれる。

「わからない」に囲まれている学習者には大きな安心となる。それが日本語学習へのモチベーション維持にもつながる。

母語支援の候補者

- ・高校生世代の支援に関心のある留学生、通訳者 など

原則は、学習者の母国で生活経験がある者に依頼する。日本での生活に不安が募りやすいダイレクト生にとって、自分の国の文化まで共有できる大人と話せることは心強いためである。

ただし、見つからない場合は、母語を話す別の国の出身者や、学習者が第二言語も十分理解できる場合、第二言語の話者へ依頼してもよい。

同じルーツの少し上の年齢の存在は、ロールモデルとしても重要な役割をもつ。

人数と募集先

クラスごとに各言語の母語支援者が1名はいることが望ましい。そのため、可能であれば有償で依頼する。

地域の大学やその国の料理・食材店からの情報収集、国際交流協会への相談などから、母語支援者を探す。

(4) 学習支援ボランティア

日々の学習を主にサポートする者が学習支援ボランティア（以下、「ボランティア支援者」）である。基本的に無償で、教室時間に学習者の横に座り共に学習を進めるのがボランティア支援者である。

① ボランティア支援者の活動内容と対象者

活動内容

（地域学習教室で）

- ・教室コーディネーターと共に学習者のニーズを聞き取り、学習内容を考える。
- ・学習者が躓いているところや説明を求める箇所について教える。
- ・学習者についての理解を深め、信頼関係をつくる。

(その他)

- ・学習者の様子や言葉から、生活や進路の悩みなどを聞き取りコーディネーターに共有し、対応をサポートする。
- ・支援者の専門性や経験をキャリアプログラムで活かす
- ・地域で暮らす外国人の状況を知る など

対象

- ・できる限り継続して関われる者
- ・学習者や教室コーディネーターと相談しながら活動できる者
- ・学習者に寄り添い学習を支えられる者 など

しばしば、ボランティア活動を希望する者から、「日本語しかできないが活動できるか」、「日本語教師等の資格や教育経験がないが大丈夫か」と問合せがある。こうした資格やスキルは学習の効果を高めうるが、必須ではない。最も重要なことは学習者に寄り添い、目の前の学習者に一番必要なサポートは何かと考え続ける姿勢である。

人数

地域学習教室の実施形態による。マンツーマンやペア学習であれば、学習者数とほぼ同数のボランティア支援者の協力が必要である。なお、こうした個別対応が基本となる形式で地域学習教室を立ち上げた際は、教室コーディネーター1名の場合、1クラスの学習者は5名ほどがよい。学習者と支援者の双方と関わり、丁寧な伴走支援ができる規模である。そのペアでの学習期間が長くなれば、学習者の受入人数を増やす。

学習者のレベルが近くグループ学習ができる場合は、必要な支援者数は少なくなる。ただし、主担当者と補助者などチームティーチングにした方がよい場合もある。

ボランティア支援者は長期間、直接的に学習者と関わる存在である。未成年者も含まれる学習者の保護、学習者の願いに寄り添う教室運営のために、事前にボランティア支援者から合意を得ておくべきことがある。それを活動要件としてまとめる。

②ボランティア支援者の活動要件

学習者、ボランティア支援者双方の安全安心を確保するために、ボランティア募集に先立ち、以下の事項を検討しておく。

ボランティア研修の受講

初めてボランティア活動をする者や、高校生支援は初めて、外国人支援が初めてなど色々な立場の者がいる。学習効果を高めるためにも、ボランティア支援者と理念や目標を共有することは重要である。そこで、ボランティア研修を実施する。

▷テーマ

多様な経験をもつ者がいるため、状況に応じて数回実施できれば望ましい。

- ・外国にルーツをもつ子どもや高校生世代がいる背景
- ・実施団体の理念
- ・高校生世代支援にあたっての具体的な支援方法 など

▷実施時間

各テーマ、1時間半の講義+30分の質疑応答の構成が望ましい。テーマによるが、事前に講師に聞きたい質問を参加申込と併せて尋ねておくことも有効である。

▷研修講師

それぞれのテーマごとに講師を依頼する。

- ・地域の外国人住民について熟知している国際交流協会職員
 - ・社会福祉協議会のスタッフ
 - ・大学教員
 - ・高校生支援に特有の課題を熟知している外国人生徒指導担当の高校教員 など
- 高校教員は、知り合いの学校教員等に連絡先を尋ねて、コンタクトをとる。

▷同じ研修を複数回実施する場合

年間を通してボランティア募集をする場合は、時期を分けて数回実施する、運用規程を設けた上で、研修を録画し後日の視聴をもって研修受講完了とするなどの対応を検討する。

注意事項と同意書の作成

ボランティア支援者に守ってほしい基本的事項をまとめた資料を作成する（図表2-1）。連絡先交換の禁止、マナー等について記載する。団体の活動方針や最低限のルールについて賛同を得られた際には、別紙の承認書にサインをしてもらい、活動開始となる。

重大なトラブルを未然に防ぐためにも、確認と同意の過程を踏むことは重要である。

学習記録の記載

学習時間ごとに、支援者には学習記録をつけてもらう。記録の目的と書き方なども初回研修時に伝達する。学習記録の詳細については、3章の「記録用紙」の項を参照。

KFC 外国にルーツをもつ高校生の学習支援について 支援の流れと注意事項など

KFC の活動理念

KFC では、子どもたちに社会に出て生きていくために必要な学力はもちろんのこと、社会性や自分に自信をもって生きる力も身につけてほしいと思っています。挨拶をきちんとする、休む時は事前に連絡をするなど、子どもが社会に出ても恥ずかしくないような習慣を身につけてほしいと思っています。

残念なことですが現実には、外国籍であることや外国にルーツがあることで、日本社会の中で生きていくにはさまざまな差別を受けたり、ハンディを抱えたりすることになります。その社会の向かい風にも立ち向かえるよう規律を守れる力をもってほしいと思います。

これらのことを念頭に置き、子どもの将来を考え、今後大人になるにあたって必要なマナーについての指導へもご協力をお願いします。

学習

□時間

夏のトライアル教室 1 時間目 10:30-11:20 2 時間目 11:30-12:20 3 時間目 13:00-13:50

遅刻してきた場合は、その理由を聞いてください。上と同様、正当な理由のない遅刻については指導をお願いします。また、休憩時間中の生徒同士、生徒といろんな支援者同士の会話も大事にしたいと考えています。そのため、出来る限り上記の学習時間通りに実施をお願いします。

□学習教材、教科書について

個人にドリルやワークを準備してある場合は、直接記入していただいて大丈夫です。それ以外にも本棚にワークなどがあるので、自由に使ってください（ただし、直接記入しないでください）。もしコピーが必要な場合は、コピー機を使うこともできます。備え付けのコピー機では印刷しきれない量の教材を用意したい場合、事前にスタッフへお伝えください。

必要だと思われる教材やおすすめ教材があれば、スタッフにお伝えください。既にコピーした教材も準備してありますので、ご自由にお使いください。

また文房具や鉛筆削りなどもあるので、学習に必要な場合は使ってください。

→学習が終わったあと、使ったものは元の場所に戻しておいてください。

学習したプリントや教材に、学習日を記入するようにしてください。

□学習記録用紙の記入について

事前に生徒一人ひとりと面談をして夏の間の目標を決めています。個人ファイルに添付しています。その目標に沿った学習の伴走をお願いします。目標達成はもちろんですが、夏休みにも勉強を頑張ったのだと自信をもてるよう、スモールステップで目標を確認しながら学習するなど、サポートいただきたいです。そのためにも、学習記録用紙への記入をお願いします。

●**学習記録用紙** 1 コマごとに、記録用紙に学習内容の記入をお願いします。いつも同じペアで学習するわけではないため、ほかの支援者が見ても何をどのような目的で学習したかがわかるように記入してください。

●記入してもらいたいこと

・日時 ・支援者名 ・学習内容 ・生徒の様子で気になること

学習内容：学習に使ったテキストの名前、ページ数

→どれぐらいできていたか、まだできなかったことがあれば書いてください。保護者やほかの支援者にお伝えするときの大切な情報になります。

生徒の様子で気になること：その日の学習者の様子

→学習者の様子で気になったこと、相談、できるようになったこと、次の目標などを記入してください。

図表 2-1 支援の流れと注意事項（表）

→次回の学習担当者へ引継ぎ事項がある場合は、記入してください。学習前に必ず前回の学習者からの引継ぎ事項を確認してください。

□学習後の報告

学習の後、担当のコーディネーターに、その日の学習の様子をお伝えください。

気をつけていただきたいこと

□携帯電話の使用：活動中、緊急時以外は携帯電話の使用はしないでください。（翻訳や調べものなどの場合は使用していただいても大丈夫です。）

□自己紹介：学習をスタートするとき、まず自己紹介をお願いします。

□挨拶：学習者が来たときや帰るとき、必ず挨拶をするようにしています。

□学習の後片付けとそうじ：学習終了後、自分の使った文房具や教科書の片付け、机の掃除をしてもらいます。もしできていない場合は注意して後片付けをさせてください。

□個人的なやりとり：トラブル防止のため、学習者と個人的な連絡先、住所等の交換はしないでください。

SNS も含みます。（何か連絡をとる必要がある場合は KFC 宛てにしてください）。学習者の安全を守るためです。遵守ください。学習者と個人的に出かけるようなことをしないでください。

□学習者がほかの学習者や支援者の悪口などを言ったときには、その場で必ず注意してください。

□学習支援におけるマナーについて

- ・学習者に対しては、誠意をもって親切丁寧に対応し不快感を与えないこと。（自分の考えや、やり方をおしつけるなどはしないこと）
- ・学習時に知り得た学習者のプライバシーについては口外しないこと。
- ・学習時間を厳守すること。遅れる場合は事前に連絡をとること。
- ・欠席の場合は事前に連絡すること。
- ・周りに他の学習者がいる際には邪魔をしないこと。

□コピー機：コピーをとる場合は、支援者の方が必ずコピー機を操作してください。コピーをとる場合は両面コピーにするなど節約にご協力ください。

□支援者の方には、KFC 賛助会員となっていただくことをお願いしています。

年会費（4 月 1 日～3 月 31 日）1 口 3,000 円の納入をお願いします。30 歳未満の短大生・大学生・大学院生・専門学校生は賛助学生ユース会員（年会費 2,000 円）をお願いします（交通費不要の場合は免除）。いったん納入された会費は返却しません。

□卒業論文などで当センターに通う生徒及び当センターについて書かれるときについて

学習者の生活事情を考慮するため、論文などに当センターや当センターの子どもについて書かれる場合には事前に研究計画書を提出し了承を得たうえで書いていただくことにしています。場合によっては、論文を校正させていただきます。

□ボランティア保険について：登録者には KFC がボランティア保険加入の手続きをします。ただし、他で既に加入済みの場合は KFC での手続きはしません。その有効期限は登録日の翌月から、その年度の 3 月 31 日までです。

全てに同意いただき、別紙の承認書にサインをお願いします。

図表 2-1 支援の流れと注意事項（裏）

③ボランティア支援者の募集方法

チラシ作成

ボランティア募集のチラシを作成する。下記事項を含めること（図表 2-2）。

- ・ 学習教室の目的、内容
- ・ 学習の対象者
- ・ 教室の場所・時間
- ・ ボランティアの対象者
- ・ ボランティアにあたっての留意事項（研修受講や注意事項への同意など）
- ・ 交通費支給の規程
- ・ 問合せ先

チラシ配付・広報依頼先

団体の SNS は最大限活用する。また、関わりのあるボランティア支援者や関係者をお願いするほか、様々な機関に協力を仰ぐ。下記機関は広報において高い効果が見込まれる。

- ・ 地域の国際交流協会
- ・ 国際交流協会や在日外国人教育研究協議会のメーリングリスト
- ・ 図書館
- ・ 大学のボランティアセンター
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 自治体が運営するボランティアサイト
- ・ 民間のボランティア募集团体
- ・ 地域日本語教室
- ・ 日本語学校 など

問合せ対応

問合せがあった後、下記のような流れで活動開始となる。

問合せ→活動開始までの流れの説明→面談日程の決定→面談→（注意事項や活動方針に承諾を得た場合）→研修→活動開始

④ボランティアとの相談会の実施

定期的にボランティア支援者同士の相談会を開催する。支援で難しいこと、学習者の状況共有などを行う。

ペア学習だと学習者と担当する支援者との間だけの関係に留まりがちである。ボランティア支援者のモチベーション維持や活動深化のためにも、関係性の輪を広げられるような仕掛けとする。

2ヵ月に1回程度実施できるとよい。

神戸市「高校生世代に向けた日本語教育」実証事業

外国にルーツをもつ高校生世代対象学習教室

ボランティア募集

日本の中学校に行っていないけれど高校に進学したい。
高校の勉強をもっと理解したい。
そんな願いをもつ外国にルーツをもつ若者をサポートして下さる
ボランティアを募集しています。
ご関心・ご質問があれば気軽に問合せください。

日時	場所	内容
通年教室： 月に3回、金曜日です！ クラス①14:00-16:00 クラス②17:00-19:00 集中教室： 2025年11月～2026年 3月にかけて不定期。 →いずれも具体的な日時 はお問合せください♪	ふたば国際プラザ 〒650-0042 神戸市長田区二葉町7- 1-18ふたば学舎内 ★JR・地下鉄山手線 「新長田」駅より 徒歩15分 ★地下鉄海岸線「駒ヶ 林」駅より徒歩5分	個別学習の形式です。 生徒に応じて、日本語 学習や教科の学習など をお願いします。 そのほか、特別講義な どもあります。やさし い日本語への言い換 え、可能な方は通訳、 同行などもお願いす ることがあります。

裏ページのお願ひもご確認ください。

図表 2-2 ボランティア募集チラシ（表）

お願い

- ★事前に研修を受けていただく必要があります。
- ★支援にあたっての注意事項をお守りください。
- ★賛助会員にご加入ください。



(学生ユース賛助会員2000円/年、賛助会員3000円/年。)

ボランティア保険に加入し、1000円/回を上限に交通費をお支払いします。

学生で交通費不要の場合は、会費免除します。10月以降に登録の方は、年会費が半額になります。)



外国にルーツをもつ高校生を支える 学習支援ボランティア

活動前に、ふたば国際プラザ（表面に記載の住所）にて、注意事項の説明と会員登録の手続き、研修受講を行っていただくよう皆さまにお願いしています。詳細は下記連絡先までお問合せください。



外国にルーツがある高校生支援のみなさん！
学校の勉強などの
勉強をしたい！

高校生たちのための テスト直前勉強クラス

日本の中学校には行っていないけれど、
高校に入りたい！

そんな外国にルーツがある高校生たち向けの
テスト直前勉強クラスをします！

11月17日(土) 14:00~17:00
21月31日(土) 14:00~17:00
32月11日(金) 13:30~16:30

希望者大人数、おおよそ15~20名で日本語指導しない人、
経験者でもなかったことを歓迎！高校中・高生、高校後、
高校の中学校に比べ、日本の高校に入学したい人、など
対象者として

高校生・試験の勉強、日本語の勉強、
高校に入学したい人、高校に入学した人、試験の勉強、
などには「日本語指導しない人」を15名程度します。英語指導経験者や外国人の先生、ボランティア
先生が担当します。15歳で日本にきてから、どのように高校や大学に入り、今の仕事を始めた
のか、お話を聞きます。勉強や生活も聞くので、楽しみをお楽しみください。

申し込み・連絡先
NPO 法人神戸定住外国人支援センター (KFC)

1) 既・メールでは、英語、ベトナム語、オーストラリア語、中国語、ほかの言語にも対応しています。
学校の英語や英語学習の得意な方、申し込みも可能です。

※本会は神戸市「外国人労働者に対する日本語教育プログラムの開発及び実施」の委託を受けています。

1.2月集中教室のチラシ

外国にルーツがある高校生支援のみなさん！
学校の勉強などの
勉強をしたい！

高校生たちのための 日本語・学習クラス

日本の中学校には行っていないけれど、
高校に入りたい！

外国にルーツがある高校生たち向けの
日本語・学習クラスをします！

無料

1月 2月
9(金) 16(金) 23(金) 6(金) 13(金) 20(金)
3月 クラス1: 14:00 ~ 16:00
6(金) 13(金) クラス2: 17:00 ~ 19:00

希望者大人数、おおよそ15~20名で日本語指導しない人、
経験者でもなかったことを歓迎！高校中・高生、高校後、
高校の中学校に比べ、日本の高校に入学したい人、など
対象者として

高校生・試験の勉強、日本語の勉強、
高校に入学したい人、高校に入学した人、試験の勉強、
などには「日本語指導しない人」を15名程度します。英語指導経験者や外国人の先生、ボランティア
先生が担当します。15歳で日本にきてから、どのように高校や大学に入り、今の仕事を始めた
のか、お話を聞きます。勉強や生活も聞くので、楽しみをお楽しみください。

申し込み・連絡先
NPO 法人神戸定住外国人支援センター (KFC)

1) 既・メールでは、英語、ベトナム語、オーストラリア語、中国語、ほかの言語にも対応しています。
学校の英語や英語学習の得意な方、申し込みも可能です。

※本会は神戸市「外国人労働者に対する日本語教育プログラムの開発及び実施」の委託を受けています。

通年教室のチラシ

お問合せ

〒653-0038 神戸市長田区若松町4-4-10-502
<https://social-b.net/kfc/>
 tel.078-612-2402 mail.kfc@social-b.net



特定非営利活動法人 Kobe Foreigners Friendship Center
 神戸定住外国人支援センター

図表 2-2 ボランティア募集チラシ（裏）

(5) 保護者

保護者は学習でも進路形成においても重要なキーパーソンである。そのため、申込時は本人と保護者に来てもらうようにする。日本での生活をサポートしている地域の支援者がいる場合には、その支援者にも来てもらう。

申込以降も保護者・地域の支援者と常に連絡がとれるようにすることが肝要である。特にダイレクト生は、高校進学について密な連絡が求められる。そのために、随時、個別相談ができるようにすることも重要である。

保護者との連絡手段はさまざまな方法があるが、official LINE は利便性が高い。双方が自動翻訳機能を使えば多言語でやり取りをすることや、担当者個人ではなくアクセス権限をもつ団体スタッフが誰でも内容を確認することも可能である。ただし、保護者の端末への LINE アプリのインストールが必要になることや、操作に慣れていない保護者も多いため、利用にあたっては事前の丁寧な説明が必要である。

(6) 学校関係者

生徒が通学する高校の教員と連携することも重要である。次のような連携がある。

- ・ 日常的な連絡（生徒の様子、学習状況の共有）
- ・ 学校行事や地域学習教室への行き来
- ・ 定例会議への参加 など

地域学習教室、学校、生徒それぞれにメリットがある。高校教員の負担がない形で、教員の理解を得ながら進められるとよい。

地域学習教室にとって

限られた学習時間のなかで、学習者が学習・生活面のどこで困りごとを抱えているかを把握するのは容易ではない。地域学習教室で暗い表情をしているものの、どこに要因があるのかを判別することに困難を抱えることは多々ある。担当教員から学校での様子を聞き取れるよう日常的に連携していれば、精神的ケア、学習のフォローにつなげることができる。

学校にとって

似た背景をもつ仲間と気軽な時間を過ごせ、また母語を使用できる地域学習教室では、学習者がふと本音を漏らすことがある。学校生活での辛さ、提出物について

の疑問などである。気になった言動を地域から学校に伝えることで、学校での指導に活かしてもらえる。

学習教室が長期休暇中に短期集中型教室を実施する場合、学校が補習をする負担も軽減される。

また、就学支援金や行政関連の申請手続きを、地域では保護者と連携して進めることもできる。学校では日本語や教科の学習支援だけでも教員に負荷がかかっているため、細かいフォローは地域で担うことができる。

そのほか、進路形成に不可欠な在留資格についての情報提供や、教員研修の際の講師紹介、生徒へのフォローアップなども地域と分担することができるだろう。

生徒にとって

教員が地域学習教室に、地域学習教室の支援者たちが学校に足を運ぶことで、生徒が生活する世界をそれぞれの居場所で認めてもらえたという安心感になる。特に教員が学校外での自分たちの努力にも関心をもってくれているという感覚は、生徒の大きな励みにもなる。

また、学習面においても効果を発揮する。学校での学習と地域での学習分野や時期を調整できれば、効率的に学習を進めることができる。結果、家庭学習も含めた生徒自身の学習計画作成も容易になる。

3. 地域学習教室の立ち上げにあたって準備するもの

(1) 場所

地域学習教室の運営において、場所選定は重要である。継続的な運営を可能にするために、下記の点は参考にしたい。

- ・ 駅から徒歩 15 分以内
- ・ 学習期間中、教材が保管できる
- ・ 早めに会場予約ができる（使用希望期間の 1、2 ヶ月前からしか予約できない会場もある）

学習期間中の場所変更は学習者にも支援者にも大きな混乱を招くため、できる限り一定の場所のできるようにする。

実施場所を選ぶ際、以下の設備がそろっていることも確認しておくといよい。

- ・人数分の机といす
- ・ホワイトボード
- ・プロジェクターの貸出有無
- ・ゴミ箱

注意が必要なのは、同時に複数教室の確保が必要なときである。例えば、テストの模試をするとき、聴解の学習を同じ時間帯に行うときなどは、ひとつの部屋だと不便が生じる。学習の内容やその日のスケジュールを決めた上で、それに必要な部屋数、広さ、机の数を確保できる場所を探す。

費用負担が懸念される場合は、若者の利用者人数比や利用目的によって利用料が減免されることもあるため、施設に相談することも有効である。

いずれにせよ、電車の乗り継ぎになれていない学習者やそもそも切符を買ったことがない学習者もいるため、初回の学習時には場所を丁寧に説明する、待ち合わせをするなどの工夫が必要である。

(2) 設備・備品

教材

地域学習教室の開設にあたり、教材の準備は必須である。ひらがな、カタカナの学習から、日本語初級者向けの教材、上級者向けの教材まで幅広く用意しておくことが望ましい。具体的な教材はカリキュラムを参照のこと。

文具・ファイル

文具は一通りそろえておく。そのほか、個別の学習記録や教材を保管するための個別ファイルも用意しておく。個別ファイルの内容は第3章に詳述する。

コピー機

学習者が持参したプリントや記録用紙の印刷など、急にコピーが必要になる事態が多々発生する。業務用コピー機の方が印刷速度も速く便利だが、モバイルプリンターなど手軽なものでも一台手元に用意しておくといよい。

救急箱

緊急時に備えて、最低限救急対応できる物品を用意しておく。

4. 運営資金

団体・地域ごとに事情が大きく異なるため一概には言えないが、学習者、支援者側双方について下記の点を事前に検討する必要がある。

(1) 学習者に関するもの

受講料の設定と交通費支給について検討する。高校生世代にとっては受講料、交通費支出は負担が大きく、地域学習教室への通学を断念する場合もある。受講料、交通費支給ともに基本的な規定と、どのような場合に配慮するのかを考えておくとうい。

受講料

無料とするか、受講料を徴収する形にするかを決定する。無料だと誰でも参加しやすいが、サービスを受ける感覚にもなりやすい。提供されるものでなく、「自分が学ぶために来ている」ことを自覚するためにも、少額でも受講料を徴収してもよい。受講料は団体によるが、「資料代として数百円（1回あたり）」と定めているところもあれば、「週に2回で数千円（1か月あたり）」などと定めている地域学習教室もある。

ただし、受講料徴収の規定と別に、可能であれば減免制度を設けておくとうい。

▷減免例

- ・きょうだいで通学しているため半額にする。
- ・家庭の経済状況が厳しいと相談があった場合は、事前に定め期間は無料にする。

交通費

交通費の支給は予算の範囲内での調整となる。上と同じ理由で、全額支給するのではなく、一部は学習者負担にする形が望ましい。例えば、各回往復500円分は学習者負担とし、それを超過する分で上限を設けて支給を行うなどである。通学定期券がある時期とない時期で金額が変わることにも注意を要する。

(2) 支援者に関するもの

支援者への謝金や交通費支給の有無は、地域学習教室の活動方針等により異なる。ここでは、ボランティア（無償）支援者、有償スタッフ、有識者に必要となりうる経費についてまとめる。

交通費

いずれの支援者にも交通費を支給できれば望ましい。ただし、1回あたりの上限やルール（最短距離、実費支給、定期券の有無など）、支給方法などを定めておく。

交通費管理にあたっては図表 2-3 を参考にされたい。

図表 2-3 ボランティア支援者の交通費管理表

講師交通費（例）												
名前	始発		片道	往復	4月（回）	計	5月（回）	計	6月（回）	計	7月（回）	計
〇〇〇	三宮	新長田	180	360	8	2880	5	1800	3	5400	4	1440
〇〇〇	灘	新長田	200	400	1	400	3	1200	5	2000	0	0
〇〇〇	元町	新長田	170	340	2	680	2	680	0	0	2	680
〇〇〇	兵庫	新長田	160	320	4	1280	1	320	2	640	1	320
〇〇〇	徒歩		0	0	6	0	3	0	3	0	5	0
〇〇〇	神戸	新長田	200	400	5	2000	0	0	4	1600	4	1600

謝金

謝金を用意できる場合、金額の目安の一つとして、文部科学省「外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 参考諸謝金単価表」等を参考にすることもできる。

交通費と同様に支給方法や時期などを定め、予め伝えておくこと。

ボランティア保険費

ボランティア支援者は、ボランティア保険に加入する。保険費用の拠出元と加入の責任者は決めておく。ボランティア保険は各自治体の社会福祉協議会で取り扱っている。なお、有償スタッフは原則、保険の対象にならないので、注意のこと。

(3) そのほか

活動内容により異なるが、ほかに会場貸借、消耗品、教材、キャリアプログラム、チラシ印刷などで費用が発生する。予算表を作成しておく。

また、さまざまな団体が活動助成を行っている。活動内容が助成金の趣旨に合致するものがあれば、応募するとよい。なお、自治体が助成金制度を設けている場合もある。神戸市では、「地域貢献活動補助金」という制度がある（2026年3月25日時点）。

第 3 章 地域学習教室の運営

1. 学習者の募集と学習開始に向けた準備

(1) 学習者の募集

①チラシ作成

学習者や保護者、支援者が見て地域学習教室のイメージが湧くようなデザイン、内容とする（参考：図表 3-1）。やさしい日本語のほか、地域によってニーズの高い言語に翻訳したものを作成する。

通年教室と短期集中教室では記載する内容が異なる。共通して記載すべき事項は下記の通りである。

- ・ 学習の対象者
- ・ 学習の目的、学習内容
- ・ 日程、場所
- ・ 参加費用（交通費支給がある場合はその旨も）
- ・ オンライン学習が可能かどうか
- ・ 問合せ先（電話はハードルが高い場合もあるため、連絡方法は複数準備する）

短期集中教室では、上記のほか、どのようなテーマに特化して学習するのか、キャリアプログラムの内容なども含める。

②広報

対象となる学習者に幅広く声をかけ、サポートを必要とする多くの学習者に届くようにする。広報媒体には下のものが挙げられる。なお、各学習教室の 2 ヶ月前には広報が始められるよう準備を進める。

SNS

学習者本人、保護者や支援者、関係機関にも効果的な方法である。ホームページのほか、学習者や保護者の利用率が高い媒体は、Facebook、Instagram である。実施団体の SNS だけでなく、自治体や教育委員会などの SNS での共有を依頼する。

チラシの送付

高校生世代が多く在籍する機関には直接チラシを送付する。以下の機関がある。

- ・ 高校生世代が多く通学する高校
- ・ 外国人生徒特別枠選抜校
- ・ 私学会館
- ・ 外国人生徒支援の拠点

（兵庫県では子ども多文化共生センター。自治体により異なる）

- ・ 教育委員会
- ・ 地域の国際交流協会
- ・ 地域日本語教室
- ・ 日本語学校

可能な範囲で、各機関の相談員に事業概要を伝え、必要に応じて学習者等に紹介してもらうようにする。

参考

がいのこく せいねんれい
外国にルーツがある高校生年齢のみなさん！

こう こう せい
高校生たちのための

ちやく ぜん べん きやう
テスト直前勉強クラス

がっこう し けん
学校の試験などの
べんきやう
勉強をしたい！

にほん ちゆう がっ こう い
日本の中学校には行っていないけれど、
こう こう せい
高校に入りたい！

がいのこく せい せい む
そんな外国にルーツがある高校生たち向けの
ちやく ぜん べん きやう
テスト直前勉強クラスをします！

① 1月17日（土）14:00-17:00

② 1月31日（土）14:00-17:00

③ 2月11日（水・祝）13:30-16:30

参加できる人：おおおよそ 15～20 歳で日本語の勉強をしたい人
授業でわからなかったことを質問したい夜間中学生、高校生
昼の中学校に通わず、日本の高校に入学したい人 など
勉強すること：

こう こう せい し けん べん きやう
高校生…試験の勉強、日本語の勉強。

こう こう せい べん きやう
高校に入学したい人…高校入試に向けた勉強。面接の練習。

31日には、「先輩の話を聞こう！」という活動を行います。大阪府立高等学校のパレル・ハンズII
先生がお話しします。15歳で日本に来てから、どのように高校や大学に入り、今の仕事を始めた
のか、お話を聞きます。保護者や支援者も来てください。申し込みをお願いします。

ばしよ こくさい
場所 ふたば国際プラザ

〒653-0042
こうべ し ながたけふたばちやう ちやうめ ばん ごう
神戸市長田区二葉町7丁目1番18号

ふたば学舎内 TEL 078-747-0280

GoogleMap

申し込み・連絡先

NPO 法人神戸定住外国人支援センター（KFC）

LINE・メールでは、英語、ベトナム語、ネパール語、中国語、ほかの言葉にも対応しています。
学校の先生や支援者からの問い合わせ、申し込みも可能です。

本事業は神戸市「高校生世代に向けた日本語教育プログラムの開発及び実証業務」の委託で行います。

図表 3-1 チラシ例（短期集中型別教室「テスト直前教室」）

(2) 個別面談

①対面での学習希望の場合

問合せ→個別面談→学習開始となる。

日時決定

事業の対象になるのかを確認して、面談日程の決定に進む。学習者本人と保護者または支援者（必要な場合は通訳者）が同席できる日で調整する。

基礎情報の聞き取り

カリキュラムに記載の面談票を基に、学習者の基礎情報を聞き取る。特に進路希望と、それに対してどこまで学習者本人と保護者（支援者）が理解しているのかもここで確認しておく。

日本語テスト

日本語のゼロ初級者以外は、申込時にテストを行う。できる限りその場で結果をフィードバックする。

学習計画の設定

苦手なことや得意なことを明確化し、長期・短期の目標を設定する。目標は学習者自身が決め、目標シートには母語で記載してもよいこととする。目標に応じて、どの教材を使用するのかを、学習者と共に選定し、ある程度絞っておく。

学習者の緊張をほぐせるよう、温かい雰囲気を実施できるようにする。ここで聞いた情報が、後々のキャリアプログラムや日々の活動に生きてくるので、詳細な情報収集ができるとよい。

②オンライン学習者の場合

学習効果や同世代との交流の点では、対面での学習が望ましい。しかし、会場まで通うには時間や交通費がかかる、家庭の事情を抱えているなどの学習者には、オンラインでの学習を提供する。

事前の検討事項

対面での学習以上に配慮事項が多い。以下の点は、事前に検討しておき、面談で学習者に選択肢を提示できるようにしておく。

- ・ 使用できる電子機器がない場合の機器貸出の可否。
- ・ インターネット接続がない場合、モバイルルーター等の貸出可否。
- ・ 学習者の手元や表情が見えるようにするために、カメラ接続を求めるか。
- ・ カメラが利用できない機器を使用している際の対応方法。
- ・ 事前学習を求めるか。その内容を授業前に支援者に共有してもらうかどうか。
- ・ 共有してもらう場合はその方法。

面談

オンライン学習を希望する者にも、一度は対面で顔合わせをする日を設ける。面談の流れは上記「基礎情報の聞き取り」の通りである。

ただし、オンライン学習の場合、基礎情報のほかに下記の事項について学習者に尋ねておく。

- ・ 使用できる電子機器の種類
- ・ インターネット接続の状況
- ・ カメラ使用ができるか
- ・ 音声の出力・入力に問題がないか

授業日の設定

通常のクラスとは別に、オンライン対応ができる支援者がいる時間を授業日に設定する。

オンライン学習者は、散住地で暮らし自宅近隣に同世代の仲間がいないことも多々ある。友人づくりのためにも、キャリアプログラムなどの折をみて、対面での参加を積極的に呼び掛ける。

(3) 学習を始めるまでの準備

初回の学習日までに、教材と個人ファイルを用意しておく。

教材

学習者が定めた学習目標と、テストを実施した場合はその結果に応じて選定する。具体的な教材例については、カリキュラムを参照のこと。

個人ファイル

学習者の記録を残していくものである。学習者が学習を振り返るためにも、支援者が変更になった際につつがなく引き継げるようにするにも重要である。以下の情報を挟むようにする。

- ・ 目標シート
- ・ 個人情報（名前、渡日時期、ルーツなど）
- ・ 支援者用の記録用紙
- ・ 学習者用の記録用紙
- ・ 教材

記録用紙

支援者と学習者が毎回記載するものである。図表 3-2 と 3-3 のように、支援者用と学習者用の 2 つのフォーマットを用意する。記録用紙に含むべき事項には以下のものがある。

内容

(学習者用)

- ・ 学習した内容
- ・ 学習者が新たに学んだこと（復習や、その日の学習難易度を測るための項目）

(支援者)

- ・ 学習した内容
- ・ 使用した教材
- ・ 復習してほしい事項（次に担当する支援者に引き継ぎたいこと）
- ・ 学習者の様子で気になったこと（学習以外の事柄も含む）

注意事項

(学習者)

- ・ 質問項目を各言語に翻訳した多言語版を作成し、母語での記載も可能とする。
- ・ 支援者が学習内容の振り返りや記載などのサポートをする。

学習者は、何を書けばいいかわからず全項目に同じことを書く、慣れてくると前回と同じことを書くなどの様子がしばしば見られる。しかし、学習記録は単なる記録ではない。その日に学習した内容を思い出し定着を促す役割や、以前の学習内容を振り返り、長期的には自身の成長を感じるツールにもなる。そのため、授業時間の終わりに記録時間を設け、支援者が記録のサポートをするとよい。

(支援者)

- ・ 毎回同じ支援者が担当できるわけではないため、他の支援者が見てもどこから学習を始め、何を復習すればよいかかわかるように記載する。
- ・ 学習が始まる前に過去の記録を一読する時間を設ける。
- ・ 学習者が記録を書く際は、それをサポートしてから支援者が記録する。
- ・ 上を踏まえ、支援者には学習時間の 10 分ほど早めに来てもらい、終了時刻は 10 分ほど遅くなることを伝えておく。

情報の管理

個人ファイルは、学習者の個人情報が多く含まれる。そのため、以下の事項に留意が必要である。

- ・ 学習終了後に必ず回収する
- ・ 写真での記録を禁止する
- ・ 鍵付きのロッカーやキャビネットに保管する
- ・ 保管期間を定め、古いものから処分する など

学習記録簿 学习记录表 _____月

名前姓名：_____

半年後にできるようにになりたいこと 半年后想做到的事情

1か月後にできるようにになりたいこと 一个月后想做到的事情

日本語を勉強した日と時間、何を勉強したのか、難しかったことや、学んだことを書いてください。母語で書いてもいいです。1日に1回書きましょう。

请写下你学习日语的日期、时间、学习内容、困难之处或学到的知识。也可以用母语来写。一天写一次吧。

…月…日 () : ~ :	なにを勉強しましたか。 (テキストの名前) 学了什么? (教材名称)	難しかったこと 感到困难的地方	新しく学んだこと/できるよう になったこと 新学到的内容 / 掌握的技能	次までに勉強しておくこと 下次课前需要学习的内容
例) 7月28日 (月) 10:30-13:50	例) 年をつたえる、電話番号の言いかた (中学生の日本語) 例如: 问候语、表达年龄、说电话号码 (适合初中生学习的日语)	あいさつをほかの人にすること 能和其他人打招呼	ほかの人に年をきけるようになった でんわばんごうを教えられるように なった 能问别人的年龄 能告诉别人自己的电话号码	きょう勉強したことを家でもやる しゅくだいをする 在家复习今天学的内容 做作业
月 日 () : ~ :				
月 日 () : ~ :				
月 日 () : ~ :				

図表 3-2 学習者用記録用紙

学習記録簿

名前 _____

学習者の目標

1 時間ごとに記入をお願いします。

…月…日 …時～…時	勉強したこと	なにを使いましたか。教材。	新しく学んだことば/後日教室で復習してほしいこと	難しかったこと	得意なこと/できるようになったこと	その他、気になったことや学習者の様子	家で勉強しておいてほしいこと（その日の最終コマで記入）
担当： 例) 7月28日 13:00～13:50 担当：二葉	例) 学校で使う挨拶	例) 中学生の日本語 1 ページから 3 ページ	何歳ですか？ 立つ・座る	カタカナを思い出すのに時間がかかった。	実際にほかの人へ質問をすること	どんな高校があるのかわからず心配と話していた。	ひらがなをカタカナに書き直す練習。問題を書いて渡しました。
月 日 () : ~ : 担当：							
月 日 () : ~ : 担当：							
月 日 () : ~ : 担当：							
月 日 () : ~ : 担当：							

図表 3-3 支援者用記録用紙

2. 教科学習支援

日本語学習については、別冊のカリキュラムを参照。ここでは、教科の学習についてまとめる。

(1) 生徒の教科学習

生徒の教科学習は難易度が高く、教えられるか不安をもつ支援者は多い。だが、教科の理論的な点で躓いているというよりも、前段にある用語理解で躓いている生徒が多い。その証左として、外国ルーツの高校生が赤点を取りやすいのは、家庭科、保健、情報などである。漢字が並ぶ長い単語、聞き慣れない単語の頻出が学習の難しさを引き起こしている。

そこで、地域学習教室では生徒が赤点をとらず、留年せず進級できるようにするために、下記のような教科学習支援が実施しうる。

教材

学校で配付された資料。教科書やプリントなど。プリントは板書を写すことに精いっぱい、空欄が埋められていない、漢字の読み方がわからないなどの課題を抱えていることが多い。

学習内容

用語理解で躓いている場合は、主に教科書やプリントで太字になっている重要用語の理解度確認と説明補足。母語や英語での言い換えも有効である。学習時間内にできることは限られているため、使いやすいツール（AI 翻訳や教科書末尾についている五十音表の使い方）の紹介など、自分で学習を進めるための工夫を伝える。

レポート作成など、「書く」で躓いている場合は作文指導をする。言いたいことを箇条書きにし（母語でも可能とする）、支援者と共にレポートの形に仕上げる。

資格試験

学校のテスト勉強のほか、進学に向けた学習ニーズがある。専門的な教科学習をサポートすることは困難であるが、進学に役立つ情報を提供する。その一つが資格取得である。高校生世代は、一般入試で高等教育機関に入学することはとても困難である。希望する進路を実現できるよう、英語検定や母語等の言語資格試験、JLPT、日本留学試験（EJU）など資格試験の受験と勉強方法を指導するとよい。

（２）ダイレクト生の教科学習

日本語ゼロ初級のダイレクト生は、まずは日本語学習を進める必要があるが、本来有している教科の力を発揮できるようにすることも肝要である。ダイレクト生は母国等で教科学習をしてきたため、問題文が日本語でなければ、難なく解けることが多い。そこで、ハードルになっている、日本語の問題文の意味を理解できるように指導する。具体的な手法の例は、「（３）算数・数学指導について」を参照。

教材

受験する自治体や他自治体の高校入学試験の過去問題、過去問題に似た形式の問題が多数掲載されている市販の問題集。

面接

その他、外国人生徒の特別枠選抜等では、面接を課す学校も多い。面接で問われる項目への回答準備と練習はもちろん、日本での面接マナーなども併せて伝える。基本的な質問例として下記のものがある。

- ・ 中学校で頑張ったこと
- ・ その高校を志望した理由
- ・ 高校への通学方法
- ・ 高校で頑張りたいこと
- ・ 高校卒業後の進路展望
- ・ 母国と日本の違い など

日本語での応答、わからないときの対応方法などを伝える必要もある。

(3) 算数・数学指導について

多様な言語背景を持つ学習者が算数・数学を学んでいる。算数・数学は言語依存性が低い教科と思われがちだが、実際の指導現場では「日本語」が大きな壁となる場面が少なくない。学習者に算数・数学を指導する際の注意点と、効果的な指導方法について述べる。

①指導に入る前に必ず確認すべきこと

指導を開始するにあたり、最初に行うべきことは**代数学の習熟度の正確な把握**である。具体的には、以下の内容を確認する。

第一に、算数分野では

- ・九九
- ・割り算の計算
- ・分数の計算

が十分に身についているかを確認する。

第二に、中学数学として

- ・正負の数
- ・一次方程式
- ・連立方程式
- ・二次関数

の理解度を確認する。

確認方法としては、手持ちの教材や教科書を用い、**学年ごとに数問ずつ問題を解かせる**のが最も確実である。重要なのは「学年」で判断しないことである。決して、年齢や在籍学年に合わせてスタート地点を決めてはいけない。

指導の開始地点は、**本人が簡単に、ほぼ迷わず解けるレベル**でなければならない。日本語の文章は算数・数学の本質ではないが、外国人児童・生徒にとってはそれ自体が大きな負担となる。目安としては、**8割以上をスラスラ解ける水準**から始めることが望ましい。理解の浅い状態で先に進むことは、数学嫌いを助長するだけであり、長期的には大きな遠回りとなる。

②日々の学習における効果的な方法

日常的な学習においては、生成 AI を積極的に活用することが極めて有効である。

第一に、理解できない箇所が生じた場合は、日本語の教科書やプリントを写真に撮り、生成 AI（ChatGPT や Google Gemini など）に読み込ませる。そして、それを**学習者の母語に正確に翻訳させて読ませる**。日本語のまま理解できれば理想的だが、算数・数学には独特の言い回しが多く、誤解が生じやすい。初期段階では、常に母語で内容を確認しながら理解を深める方が、結果的に学習効率は高い。（試験的に兵庫県の公立高校入試に特化した数学 AI を和田翔熙氏に作成依頼し、運用している。）

第二に、日々の問題演習についても、市販のドリルや問題集を生成 AI に読み込ませ、翻訳された問題を解かせる方法が有効である。代数学の問題文は比較的平易であるため、学習が進むにつれて、徐々に日本語の問題文をそのまま読めるようになるケースが多い。

第三に、幾何分野は特に指導が難しい。理由として、生成 AI の対応精度がまだ十分でないこと、日本独特の表現が多いこと、説明が文章中心になりやすいことが挙げられる。この点については現在も検討段階ではあるが、将来的には幾何に強い生成 AI を活用し、代数学と同様の指導方法を確立していくことが望ましい。

算数・数学は、本来国境を越える学問である。適切なスタート地点の設定と、言語の壁を取り除く工夫があれば、外国人児童・生徒であっても着実に力を伸ばすことができる。指導者には、学年や形式にとらわれない、柔軟で本質的な視点が求められている。

3. 学習継続のための工夫

高校生世代は、高校の就学費用を自分で稼がなければならない者も多く、進学先の選択肢が少ない、日本語学習機会が限られているなどの困難を抱えている。そのなかで日々懸命に学習をしているが、自分で解決できない課題が多く、学習意欲を失ってしまうことも珍しくない。そこで、学習環境をつくるだけでなく、日本語を使いながら学習意欲を維持できるようにするための工夫も求められる。具体案は下記のものがある。

(1) キャリアプログラム

進路や生活に直結する内容を日本語で学ぶ。学習者に共通して見られる課題や時事に応じて活動内容を検討する。

流れ

内容の検討→講師・通訳依頼→打合せ→謝金用意→当日

内容の検討

日本の社会的仕組みや相談場所などを紹介する。渡日数年の学習者には聞き馴染みのない言葉や施設が多く、保護者も十分に理解しているとは限らない。いざという時に助けになる制度があることをぼんやりとでもインプットし引き出せるようにしておく。

よくある課題

- ・在留資格に関する理解不足
- ・日本での進路形成への具体的なイメージ不足
- ・公的機関を利用することの心理的ハードル
- ・お金に関するリテラシー不足

これらは、学習者や家庭の問題というよりも、母国等との制度の違いや、その違いを理解するための学習機会の不足、通訳などの配慮が不十分など、社会資源の不足や制度不整備によるものである。学習者の学ぶ場を設けつつ、支援者が社会に働きかける意識も重要であろう。

講師

専門的なトピックでは、外部講師に依頼する。例えば在留資格の話は行政書士、生活に関する話であれば高校の社会科教員などに依頼する。高校生世代に理解がある者に依頼するのが望ましい。

通訳

専門的な話を日本語でそのまま理解するのが難しい学習者が多いと予想されるため、日本語での理解の補助として通訳にも依頼する。

打合せ

やさしい日本語の使用や、通訳が入る場合には適宜通訳が入る時間をつくることなどを依頼する。座学だけではなく、学習者が考えたり意見交換したりする発問、時間を設けてもらうなど、講座の内容と手法についても希望を伝えられるように用意しておく。

謝金用意

予め講師と相談の上、謝金と交通費を用意する。

工夫

学習者同士のコミュニケーションを促進し、ルーツを越えたつながりを生み出せるよう、能動的な活動の場づくりを目指す。

期待される効果

取り上げたトピックについての理解深化のほかに、学習のリズムをつくる機会になる。

具体例はカリキュラム提案書を参照のこと。

(2) 関係づくり

学習の目標に、日本語力の向上や試験の合格などを挙げるが、モチベーション維持は容易ではない。その維持を支えるのは、仲間や支援者との関係性である。学習者同士が話せるような話題を出したり、わからないことをほかの学習者に聞く機会を設けたりと、学習者同士が気軽に話せる空気をつくる。会話が進むようにコーディネーターやボランティア支援者が声をかけるようにする。

(3) 目標の再設定

学習を始める際や年度初めには目標を設定する（第2章を参照）。ただし、目標を達成した際など、目標変更の必要が生じることがある。試験の結果が判明したとき、学期が変わるときなど、定期的に学習目標と達成度を確認し、目標を再設定する。その際、支援者は次のような工夫ができるとよい。

- ・学習者ができていること、できていないことを適切に伝える。

- ・ 学習者が「できるようになった」と実感できるしかけをつくる。学習済教材と一緒に見る、試験結果の変化を分析する、学習記録用紙の内容変化を見るなど。
- ・ 以前の目標に対する取り組み方のよかったところと反省点を学習者とともに考える。

第4章 進路形成のために

1. 高校進学

(1) 地域の高校情報を集める

ダイレクト生たちのニーズに応じた進路形成ができるよう、多様な学校情報を収集する。

相談先

地域ごとに資源が異なるが、以下のセンターや施設への問合せ、ホームページの確認をするとよい。

- ・外国人児童生徒を支援するセンター（兵庫県は子ども多文化共生センター）
- ・在日外国人教育研究協議会
- ・「外国人生徒にかかわる特別枠選抜」実施校（参考サイト¹¹⁾）
- ・各都道府県の私学協会
- ・中学校・高校教員、元高校教員、地域学習教室の支援者

進学先

各自治体により実情が異なるが、神戸市の場合は、ダイレクト生たちの進学先として下記の学校種等がある。

- ・公立全日制高校—「外国人生徒にかかわる特別枠選抜」実施校、外国人生徒の受入実績がある高校。特別の教育課程による日本語指導の実施校。
- ・公立定時制高校—特別の教育課程による日本語指導の実施校。課外で日本語教室を開催しているなど、日本語指導が必要な高校生が学習しやすい環境を用意している学校。
- ・私立高校—学費の不安がある家庭もあるため、費用は要確認。

¹¹⁾ 外国人生徒・中国帰国生徒等の高校入試を応援する有志の会「都道府県立高校における外国人生徒・中国帰国生徒等に対する2025年度高校入試の概要」

就学費用

授業料、学用品購入などの就学費用を調べる。近年、公立校でもタブレット購入等で入学時に支払う額が大きくなっている。各自治体がさまざまな助成制度を設けており、その活用も念頭に置く。

神戸市の場合、通学費用の助成もある。兵庫県では「授業料軽減補助金」が設けられている。ただし、昨今の高校無償化議論の中で、在留資格によつての助成可否が俎上に載せられている。今後の議論の行方に注意が必要である（2026年2月時点）。

（２）進路相談

①進路希望の聞き取りと相談対応

聞き取り項目

- ・日本の高校教育制度に関する理解
（私立と公立の違い、在学年数、一般的な時間割など）
- ・入学試験があることとその時期に関する理解
- ・就学費用に関する理解
- ・母国で学習した教科と入試教科の比較
- ・出願に必要な成績証明書や中学校卒業を証明できる書類の有無

具体的な高校の提示

希望に合致する高校の選択肢を提示する。その際、以下の事項は事前に確認しておくといふ。

- ・入学後の日本語学習や他のサポート体制の有無
- ・入学試験で必要な教科
- ・卒業に必要な年数
- ・授業科目の選択可否

なかには、友人やきょうだいからの話で志望校を決める学習者もいる。ただし、その学習者の希望に合致しているのかを確認して、進路相談ができるといふ。

第二志望

志望校によっては不合格になる可能性があること、合格できなかった際の第2希望の選定などの話をする。

日本の学校文化を経験していない家庭には、丁寧なサポートが必要である。制度的に難解な内容もあるため、教育相談の際は通訳者に同席してもらうとよい。

②出願方法の確認

ダイレクト生は自分で必要書類を確認・用意し、出願しなければならない。日本の中学校に通う中学生とは異なる資料の提出が求められることもしばしばある。例えば、兵庫県では2025年度試験までは、出身校の校長サインが原本で必要だったため、願書を母国へ郵送または持参しなければならず、さまざまな混乱が生じていた。募集要項や様式公開から出願締め切りまでの限られた期間で、書類を仕上げなければならないなど、注意点は多い。

兵庫県で2026年度から開始されたオンライン出願でも、日本語で書かれたマニュアルが読めない、表示が日本語のみで、家庭で操作をするのは大変難解などの課題があった。そもそも試験を受けられないという事態も発生しうるため、出願に際してもサポートの必要がある。

(3) 説明会の開催

個別の教育相談のほか、体系的な情報提供の場として自治体の進学説明会を案内する（説明会の詳細はカリキュラムを参照）。

ただし、自治体の高校進学説明会では、通訳が手配されていない、参加者が多く質問できない、開催時期が限られており参加できないなどの事態が発生しうる。そこで、ダイレクト生や保護者が細かな疑問も解決できるよう、独自に（あるいは近隣の団体と共に）説明会を開催する。自治体に、説明会で使用している資料を共有してもらえないか相談するのも良い。

講師依頼

説明会の際、正しい情報を提供できる団体・人物に協力を仰ぐ。

- ・教育委員会
- ・進路指導をしている中学教員
- ・高校教員や志望校に通学している生徒

内容

- ・ オープンハイスクール
- ・ 入試に向けて勉強すべきこと
- ・ 専願と併願の違い
- ・ 出願と受験までのスケジュール

保護者にとっても日本で初めての入試である場合もあるため、丁寧に理解を深められるようにする。

2. 高校卒業後の進路相談

高校に通学している生徒にも卒業後の希望進路を聞き取る。地域学習教室での学習内容や、目標設定に大きくかかわる点である。明確に進路を決めていなくても、なぜ、どんな点で決められずにいるのかを聞き取る。

(1) 進学の場合

①進学制度や仕組みの理解度を確認する。

学費

初年度と2年度以降からかかる費用の違い、家庭で支出することができるのか、できない場合はどうするのかなど、計画を聞き取る。

奨学金

外国籍生徒は、在留資格によって申し込める奨学金の種類が限られている。在留資格が「定住者」や「永住者」であれば活用できる制度の幅は広いが、「家族滞在」が利用できる奨学金は少ない。その中でも、社会福祉協議会の生活福祉金は「家族滞在」にも門戸が開かれている。学費支弁の見込みは何度も確認をする。

奨学金の支給日

奨学金の支給日には、入学後の場合が多いということに注意が必要である。入学金が支払えず、合格していたのに入学できなかったという事態も珍しくない。いつまでにどのくらいの費用がかかるのかを予め確認しておく。

在留資格

「家族滞在」の学習者は、扶養者（主たる滞在者）が帰国すると在留資格を失い、退学を余儀なくされるなど、滞在する上で在留資格の安定性に欠ける。そのため、より長期的な展望を見据えた相談が必要である。

②志望する高等教育機関に関するリサーチを支援する

大学リサーチのサポート

高校生世代にとっては自分でリサーチすることに困難を抱えている場合もある。地域学習教室外でも自分でリサーチできるよう、下記事項に関しては、一緒に確認しながら進めることが望ましい。

- ・ 資料請求
- ・ 大学への問合せ
- ・ オープンキャンパスへの参加
- ・ 入試要綱の読み込み

入学試験の方法

高等教育機関の入試では、さまざまな試験のタイプを設けているため、以下のことを調査する。

- ・ 外国ルーツ生への特別選抜制度¹²の有無
- ・ 学費減免の可能性
- ・ 得意を生かした入試の有無（英語資格活用など）
- ・ 学校推薦

¹² ME-net(2024 年)「【資料】2025 年度版外国につながる受験生のための大学・専門学校一覧」

・日本留学試験（EJU）¹³の必要性

受験時期が限られる日本語能力試験や日本留学試験、英語資格の習得、その取得期限を厳密に定めている大学も多いため、要注意である。

高校との連携

以上のサポートは高校で実施されている場合もある。学校での支援と相乗効果を図れるよう、所属校の教員と連携できれば望ましい。

（２）就職の場合

就職を希望している場合は、学校幹旋などの実績がある学校教員が生徒及びその家族にとって有力な相談先となる。

ただし、「家族滞在」者の場合、在留資格が思わぬ壁になることも多々ある。４月からの就労に在留資格更新が間に合わないなどである。こうしたトラブルについては、地域学習教室が適宜サポートできるようにする。

以上は、学習者本人の思いと同時に、家庭の理解も必要である。なかには学習者の願いとは異なる進路展望を描いている保護者もいるだろう。どれだけ家庭の協力を得られるのか、その点で困っている場合は、間に入るなどの対応も必要に応じて行うとよい。

（３）他機関との連携

高校との連携のほか、生徒の進路相談での大きな味方が、大学の入試担当教員や行政書士である。

大学教員

入学試験の方法や奨学金について尋ねる。学問分野の相談、オープンキャンパスで実施しているワークショップ、面接練習などで協力を仰ぐ。

普段関わる機会が少ない大学教員が地域学習教室に来ることで、学習者の学習意欲も向上する。

¹³ 日本学生支援機構（JASSO）が実施する試験。

行政書士

進路形成で欠かせない在留資格の問題について相談する。在留資格制度は変わりやすく支援者のみで全てを把握することはとても困難である。学習者の進路希望や進路変更に応じて相談する。

ただし、個別依頼だと有料になる。神戸市では（公財）神戸国際コミュニティセンター（KICC）で無料の行政書士相談ができる。

補足 2025 年度実証事業の概要

1. 学習者

本実証事業は概ね 15～20 歳で、日本の中学校には通学していないが高校進学を希望しているダイレクト生、または高校に通学している高校生を対象に実施した。

実証事業開始前より実施団体で学習していた高校生たちに声をかけ、5 名で開始した。学習者募集の広報の結果、7 月にダイレクト生からの問合せが重なり、夏には 10 名が学習。その後、ダイレクト生、生徒ともに少しずつ問合せがあり、年度末には 15 名の学習者が継続的に学習していた。ダイレクト生が 6 名、生徒が 9 名である。ダイレクト生の年齢は 15 歳から 18 歳まで幅広いものの、日本語学習はほぼ初めてという共通点があった。生徒の課程（全日制・定時制・通信制）や学年、渡日時期、日本語の学習状況、各々の目標も多様であった。

3 月まで学習を継続できた学習者のほかに、3 名が生活リズムが合わない、帰国せざるをえなくなったなどで、学習を中断している。

日本での居住期間が一定あるものの、学習言語（論理的思考力としての日本語）の習得が十分でない者や、居場所を必要とする者、中学校には編入したが高校進学に課題がある者などについても、可能な限り広く支援対象として共に学んだ。

本手引きは、こうした学習者たちとの歩みから得られた成果と課題を基に記述している。

2. 日程

通年教室と短期集中型教室を実施した。各日程と場所は下記の通りである。

【通年教室】

日程	毎月 3 回 金曜日
時間	① 13:00-15:00（のちに 14:00-16:00 に変更） ② 17:00-19:00
場所	ふたば国際プラザ（※1）

（※1）ふたば国際プラザは、神戸市の中心地三宮より西の神戸市長田区に位置する。最寄駅からは徒歩 10 分強の場所。

【短期集中型教室】

夏季集中教室	
日程	7月～8月21日のうち平日13日間（内2日間はキャリアプログラム日）
時間	10:30-13:50 50分×3コマ、間に昼休憩。
場所	神戸市教育会館（※2）

（※2）神戸市教育会館は、神戸市内の主要駅である各線三宮駅から徒歩約15分、最寄り駅からは5分の場所に位置する。

冬季集中教室	
日程	11月中3日間（土・日曜日）
時間	13:00-16:30/14:00-18:00
場所	ふたば国際プラザ 及び KFC 本部（※3）

（※3）KFC 本部は、神戸市長田区内、各線新長田駅から徒歩5分の位置にある。学習教室と事務所があり、レベルに応じて場所を割り振ることができる。

年末集中教室	
日程	12月中2日間
時間	10:00-13:00 50分×3コマ
場所	ふたば国際プラザ

テスト直前教室	
日程	1月～2月中3日間（土曜日・祝日）
時間	13:30-17:00 の内 3時間 50分×3コマ
場所	ふたば国際プラザ

春季集中教室	
日程	3月中2日間（内1日は合格祝賀会）
時間	学習日 10:00-14:00 の内 3時間 50分×3コマ
場所	ふたば国際プラザ

3.成果

学習教室の成果は、目に見える指標だけで測られるべきではない。教育とは、長い時間をかけて目に見えない柔さに働きかけ、その者が将来安心して生活を送り、理想像を実現できるようにする営みだからである。そのため、容易に成果をまとめることはできないが、学習者の様子の変化を記述する。

高校進学

ダイレクト生 6 名全員が高校進学を果たした。日本語ゼロ初級から学習を始めたダイレクト生たちが、ひらがな・カタカナをすらすら読めるようになり、高校入試問題を解き、やさしい日本語で会話ができるようになったことは大きな進歩であった。

進級

生徒 9 名全員が進級できた。赤点をとった生徒もいたが、しっかり授業に出席し、提出物も出していたため、留年することはなかった。高校生世代の中退率が低くはないなか進級できたことは、本人たちの努力はもとより、学校教員の働きかけ、支援者による学習教室での学習・精神的なサポートの成果である。

JLPT 合格

6 名が 12 月試験を受けた。そのうち N4 は 1 名、N3 は 3 名合格できた。N3 の 1 名と N2 の 1 名は残念ながら合格できなかったが、次の試験に向けて学習を継続している。

仲間との出会い

高校生世代は仲間と出会う機会がとても少ない。友人がほしいという理由で通学を始めた学習者もいた。特にダイレクト生は孤立しがちであるが、先輩や同年代の学習者との出会いは、慣れない日本社会で暮らすうえでの不安感をやわらげた。



おわりに

外国ルーツ高校生世代を取り巻く状況は、年々複雑化している。日本語の力だけでなく、進路、生活、家族の事情、在留資格など、複数の課題が重なり合う中で、学校だけで対応するには限界がある。私たち特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター（KFC）は、そうした制度や支援から見落とされがちな外国ルーツ高校生世代一人ひとりの声に寄り添い、地域の中で学びとつながりを支える役割を担ってきた。

地域学習教室は、日本語を教える場であると同時に、高校生世代の育ちの土台づくりをサポートする場だと考えている。高校生世代は本来、日本人の子どもと同様に豊かな力を有しているが、慣れない日本での生活のなかで、「自分にはできない」「実現したい目標があってもかないっこない」「頑張っても無駄」という思いを募らせている。

諦めるには早すぎる１０代後半の高校生世代のこうした姿を見ることは、本当につらいことである。誰しもどこかで何かを諦めなければならない時はある。しかし、高校生世代や、社会的な課題を背負う若者には、マジョリティにとっては「数ミリの段差」にすぎない事象が「大きな壁」となり、もっと早い段階で諦めさせられてしまう。「自分にはできない」を否定できる場所をもつことが、日本語教育の土台になる。日本社会にとっても、外国ルーツの若者の多様な能力から得られる利益は多いはずだ。

外国ルーツ高校生世代が「学びたい」と願ったとき、その思いが孤立やあきらめにならない社会をつくるために、地域の役割はますます重要になる。本手引き書に示した仕組みや考え方は、あくまで一つのモデルで、地域の実情に応じて柔軟に応用してほしい。本手引き書が地域で新たな一歩を踏み出すきっかけとなり、さまざまな人の心が共鳴しながら広がっていき、より精錬され、多くの高校生世代が地域で学べる仕組みができることを願っている。

地域学習教室の運営は決して簡単なものではない。先行きが見えづらい今の世の中で、「日本人も大変なのに」という気持ちが膨張している。そのなかで、高校生世代に寄り添いたい、力をつけてほしいと願う地域のスーパーサポーターに助けてもらい実施することができた。本事業と、これまでの KFC の活動に多大な力を貸してくださった皆さまに御礼申し上げる。

参考文献

- 外国人生徒・中国帰国生徒等の高校 入試を応援する有志の会（2025 年）「都道府県立高校（市立高校の一部を含む）における外国人生徒・中国帰国生徒等に対する 2025 年度入試の概要」[研究報告書 A4 版 2025.indd](#)
- 兵庫県在日外国人教育研究協議会（2025 年）「高等学校における外国につながる生徒支援ハンドブック 2026 年度版追加情報 外国につながる生徒の進路相談 2026 年度版」
- 東京学芸大学（2023 年）文部科学省委託 高等学校における日本語指導体制整備事業 「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」[koko_nihongo_guideline.pdfnyuusi26.pdf](#)
- 文部科学省（2025 年）「外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 参考諸謝金単価表」

外国ルーツ高校生世代に向けた
日本語学習教室運営の仕組みづくりのための手引き

2026 年 3 月 30 日発行

発行者 神戸市
作成者 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター（KFC）
協力者 八田陽児（灘中学校・高等学校）
公益財団法人 神戸市国際コミュニティセンター（KICC）
山野上隆史（公益財団法人 とよなか国際交流協会）
神戸市教育委員会
